

第4章 ブート・ローダを書き込もう

eJackinoに搭載したAVRマイコンATmega168にArduinoブート・ローダをeJackino自身を使って書き込む方法を詳しく解説します。

eJackino (Arduino) は基板ができあがっても ATmega168 チップにブート・ローダ (ファームウェア) を書き込んでいなければ、フィジカル・コンピューティング・プラトホームとして利用できません。

次の (1) ~ (9) の手順でブート・ローダを書き込みます。

(1) USB ケーブルを外し eJackino とパソコンの接続を切り離します。

(2) ブート・ローダ書き込みケーブルを装着します (写真4-1, 写真4-2)。

接続の誤りがないよう写真4-1を参照してケーブルを配線してください。

(3) 再度 eJackino とパソコンを USB ケーブルで接続します。

(4) C:\Program Files\avrduse-serjtag\binary フォルダを開きます (図4-1)。

(5) ブート・ローダの書き込み準備のチェックをします。writer_test.bat をダブル・クリックして実行します。コマンド・プロンプトのウィンドウが開いて次のように表示されればブート・ローダの書き込み準備OKです。「quit」と入力して writer_test.bat を終了し「(6) ブート・ローダの書き

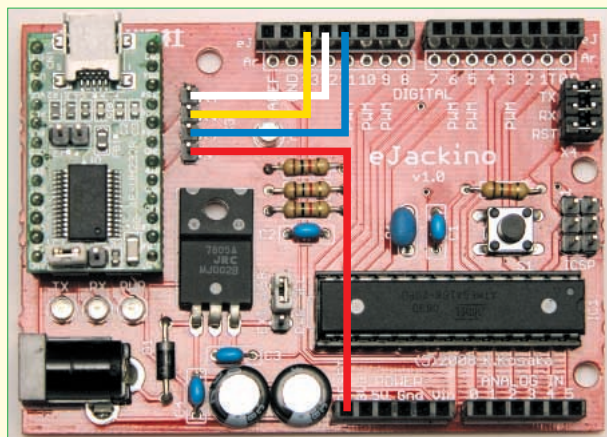


写真4-1 ブート・ローダ書き込みケーブルの接続位置

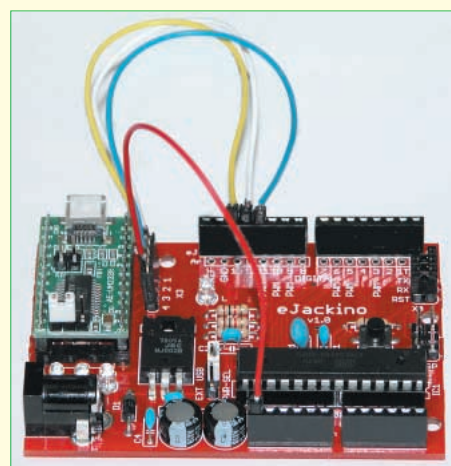


写真4-2 ブート・ローダ書き込みケーブルの接続例